

製作現場最前線 No.80

(東京都世田谷区)
有限会社 イズ



社屋外観

【会社データ】
創業／1993年12月
資本金／300万円
社員数／7名
所在地／東京都世田谷区上北沢5-8-2
TEL／03-3302-8845
FAX／03-3302-3106
URL：http://izu.petit.cc
E-mail：izu@remus.dti.ne.jp
【営業品目】
デザインテント・内照式テント・開閉式テント・
中大型テント等製作、取り付け／関連鉄骨工事
／ポール・野立看板・壁面サイン・袖看板・ネ
オンサイン・懸垂幕製作、取り付けなど
【主な設備】
カッティングマシン 1台／溶剤系インク
ジェットプリンタ 1台／ラミネートマシン
1台／Windows 4台／2tトラック 1台／1t
トラック 1台／1.5tトラック 1台／ウェル
ダー溶着機 1台／アーク溶接機 1台／など



代表取締役
石井宏和氏 (46)
「サインとテントで地域活性化」



①オフィス風景 ②工場での作業風景 ③組立て中のテントの鉄筋骨組



④歯科クリニックのファサード ⑤シャッター施工
⑥テントによるファサード ⑦FFシートを貼ったカラオケ店
⑧不燃モルディング材を縁に使用した掲示板

テント業からサインの世界へ

閑静な住宅街、東京・世田谷区。その甲州街道沿いに本社を構える(有)イズ（最寄駅＝京王線上北沢）。

同社は、サイン製作・取り付けや、テント取り付け、オーニング工事などを幅広く手掛ける。設立は1993年12月。

石井宏和社長は、元々シャッターやテントを扱う会社で営業として働いていたが、「きれいな外観、ファサードを作りたい」と心機一転。勤めていた会社を退職し独立。設立からは順調に業績を伸ばし、途中で元々父親が経営していた(有)石井テントと同じビルに社屋を移し現在に至る。

当初はテント業を中心に業務をこなしていたが、独立から数年後にファサードのトータル的な仕事をこなすようになっていった。その一環で懸垂幕広告の取り付けなどサイン業界と密接に繋がっていくようになり、サイン

関連の仕事も請けるようになった。

「テントは基本的に日差しをよけるものだが、店舗の雰囲気を印象付ける要因としても欠かせない要素。そういう面でテント業とサイン業は技術体系が似通っている部分が多い。例えば、テントを張る時のテンションのかけ方と、FFやターポリンを張る時の作業は要領が似ており、十分業務をこなせるレベルだ」との判断に至り、本格的にサイン業界へ参入していった。

石井社長は「FFシートやターポリンなどの素材を設置する技術は誇れるレベルにある」と胸をはる。今では大型カラオケ店外観をシートでラッピングするなど大きな仕事もこなす。

知識の幅が仕事を増やす

ある自治体から請けた「掲示板の縁枠に南欧風の飾りをつけて欲しい」という製作物の依頼は、思い出に残っている仕事のひとつと

語る。

「製作にあたり最初は既存の技術や素材などが使えずに苦心したが、屋外用の掲示板などにはあまり使われない飾りつきの不燃モルディング材を採用。クライアントは非常に喜んでくれ、施工例見本として素材を扱っていた販社のカタログに載るなどの高評価をいただいた。従来はあまり使用されないような素材を採用したというアイデアは、サイン業の知識だけではなく様々な知識の融合から思いついた結果」。

昨今の消防法などのコンプライアンスも重視し、法令はもちろん、メディアの種類なども日々勉強中。サインに関わらず、軒先のテント一つにしても、その不燃材対応は求められている。

これらの課題に対し「クライアントにきちんとした説明ができなければ、仕事を失いかねない。そのため、日々新しい素材の探求、新しい素材の提案は怠れない」と石井社長は話す。

信頼という付加価値で地域活性化

石井社長の理想とする経営のスタイルは『地域密着型の会社経営』。近隣の個人商店、商店街をはじめ、チェーン店など様々な店舗のファサードを手掛け、「地域活性化の一翼を担いたい」と語る。やはりここ数年の不景気の影響で、近隣の同業者はもとより地域経済も停滞がちになっているからだ。

現在従業員は7名。社員は「少数精鋭で良いものを安く速く」をモットーに仕事に励んでいる。納期に余裕がある時も責任をもって迅速に作業にあたる。あたり前に思える事だが、これにより確かにクライアントからの信頼を得ている。信頼関係を築いて無理な納期の場合にはきちんとした説明をして回避し、さらに質の良いものを製作する。

顧客のリピー率も高く、一度信頼を得ればまた次に繋がる仕事が多い。信頼が付加価値にもなりえる。

助け合ってより良いものを作る

ここ数年は、サイン業界も多方面に、得意分野を伸ばすことが重要になっている。元々が異業種からの参入だっただけに同社長は、業界の動向には注目している。

テント業にも精通しているだけに、サイン業界を客観的な視点で見ることもある。信頼される仕事でサイン業を展開していった同社。助け合いの重要性を石井社長は「看板だけでなく内部装飾、壁紙の貼り施工など業務は多岐にわたるが、その中で一緒に仕事をしてきたサイン製作会社がリタイアしていくのは残念だ。良い取組みは残っていくはずだし、なんとか生き残ってほしい。看板屋の応用力は非常に高い、切り文字やネオン曲げなど自社では出来ないことが多種あるのも事実。横のつながりを大切にし、助け合ってより良い製作物を作っていきたい」と業界の行く末を案じつつ、今後のあり方を語る。